名古屋教区ニュース

第430号
2023年 1月
〒461－0004
名古屋市東区葵２丁目６－35
カトリック名古屋教区広報部
電話（052）935－2223
FAX（052）935－2254
news@nagoya.catholic.jp
印刷所　株式会社 荒川印刷
毎月第1日曜日発行

「神からの賜物（ＡＧＩＦＴ）を感謝し、新しい時代へ」
教区聖年（2022 2.13 ～ 2023 5.28）
聖霊降臨の主日
教区設立100周年

教区ホームページ
福音のひびき

1月の説教者

1日　神の母聖マリア　光山　相泰（美濃加茂教会）
8日　主の公現　大海　明敏（五反城教会）
15日　年間第2主日　竹谷　基（半田教会）
22日　年間第3主日　ソンポタン・カロル・ヨハネス（岐阜教会）
29日　年間第4主日　暮林　響（神言修道会）

2023年　新年のあいさつ

新しい年を迎えました、主よ、すべての人にあなたの平和を

教区司教　松浦悟郎

私たちは、今年、「教区聖年」を歩む中で新しい年、２０２３年を迎えました。この一年が皆さんにとって祝福に満ちた年となりますように、世界が平和になりますようにと心から祈ります。

思えば、昨年はウクライナでの戦争という思いもかけない衝撃的なニュースに一喜一憂した年でもありました。それは今も続き、当然ながらこの戦争は、ウクライナとロシア両国の問題にとどまらず、世界を分断する事態へと発展しています。日本も大きな影響を受けています。それは、単に戦争によって資源が高騰し物価が高くなったなどのことよりも、ロシアのような侵略があったらどうしようと不安になり、非暴力による平和への信念が揺らぎ、多くの人が軍事力を高めることで安心しようと思い始めたことです。この考え方に乗じた日本の軍事化の政策は、まさに教皇フランシスコが指摘するような「恐怖と不信の心理から支持された偽りの安全保障」（２０１９年11月24日、長崎・爆心地公園でのスピーチ）の考えに他なりません。

今、ウクライナや他の紛争地域で起こっていること、また、日本で起こっている一つ一つのことは、まさに、私たちの兄弟姉妹の上に起こっていることであり、私たちキリスト者の問題であるということをしっかり心に刻みながら、平和を願い、行動していきたいものです。

昨年、教区聖年の取り組みについて皆さんに呼びかけ文を書きましたが、その中で聖年と深く関係する安息日について次のように説明しました。

「神の前に誰もが平等であったはずでしたが、やがて民の中に不平等、差別、貧富の差が生じていきました。こうした現実の中で十戒は『聖なる七の数字を持ち出して、七がつく日、つまり七日目ごとに聖なる時がきたならば、そのときこそ、すべての人が平等であるということを思い出してください』（太田道子『新しい創造』39ページ）と語っているのです。すなわち、『壊れた世界の中に、平等を持ち込むための仕組み』、『平等回復のためのプログラム』（同40ページ）が安息日の本来の意味だということです。今の主日の意味もここにつながっています」

「上記の意味を踏まえて、名古屋教区では教区聖年を、『この現代世界の現実を神が本来望まれ創造した本来のあり方へと回復していく時』という大きな視野の中で受けとめたいと思います。その中で、私たちは教区として、またキリストに従う信仰者として、今、この地で託された使命とは何かを祈り求めていきます。そのために歴史を学びます」（２０２１年11月４日付「教区聖年に取り組むために」より）

今年も続く教区聖年の歩みの中で、このような意味で歴史を学び、巡礼し、分かち合い、祈ることで、現代世界の中で求められる教会（私たち一人ひとり）の使命を確認し、福音をもたらすキリストの弟子となって力強く歩んでいけますように。

世界平和の日　1月1日

平和を唱えることは、キリストを告げ知らせること。

新年にあたり「すべての善意ある人々と手をたずさえて、平和な世界に向かって、カトリック信者としての責任を果たしていく」決意を新たにしましょう。

キリスト教一致祈祷週間 1月18日～25日

「すべての人を一つにしてください」

最後の晩さんでのイエスの祈りに耳を傾けるわたしたちは、折にふれ目に見える一致を示すよう努めます。それは「世界が信じるため」です。

この一致祈祷週間は、教皇庁と世界教会協議会が1968年以来、毎年テーマを決め、準備をしています。

世界こども助け合いの日・献金 1月29日（最終日曜日）

「子どもたちを助けている子どもたち」をモットーに、キリスト者の子どもたちは、自分たちだけでなく世界中の子どもたちの幸せを願って、祈り、犠牲をささげ、支援を行います。当日の献金は教皇庁・福音宣教省から世界各地の恵まれない子どもたちのために使われます。

クイズ！ダンス!! ミサ!!!
「ちむぐりさ」の心を生きる

教区百周年記念 こどものつどい

名古屋教区百周年を記念する「こどものつどい」が11月13日、布池教会で開かれた。テーマは「イエスさまのところへいこう！」。北陸地区からも富山教会、金沢教会、福井教会から観光バス1台に乗り合わせて親子連れで来場し、総勢およそ150人が参加した。

名古屋教区100年の歩みが紹介され、「○×クイズ」で盛り上がり、暮林響神父の歌と踊り、バンド演奏に合わせて、全員その場で立ち上がり、一緒に元気いっぱいダンスに興じた。

事前に子どもたちから集めた「こんな教会があったらいいなアンケート」で第1位に輝いたのは、「みんな、家族みたいにふれあえる教会」だった。

教会学校教師会の歴代担当司祭がDVDで紹介され、「大切にしていること」をテーマに一人ひとりが語った。

「楽しいミサを通して、イエスの優しいまなざしが皆にあるように」（平野哲也神父）、「子どもたちの信仰は家庭と教会が育てていく」（平田豊彦神父）、「福音を伝える人と出会うことが大切」（椎尾匡文神父）、「居心地の良い教会を用意したい」（西経一神父）と、教会学校が備えるべきポイントが指摘された。

松浦悟郎司教は記念ミサの説教で、サケや渡り鳥を例に挙げて生まれつきの本能について話し始め、人間の本能は「愛したい、愛されたい、共に生きていきたい」思いを持つということであると、隣人愛について説いた。

さらに愛についてNHKテレビ朝のドラマ『ちむどんどん』をひいて説明した。

「ちむとは沖縄の言葉で肝（きも）、肝臓のこと、おなかの中の内臓のことです。それで「ちむどんどん」とは、腹の底からワクワクするという意味です。一方で沖縄には「肝苦さ（ちむぐりさ）」という言葉があります。これは、他人のことがかわいそうすぎて自分のおなかまで痛み苦しみ、思わずその人に駆け寄っていく、そんな思いを表す言葉です。「善きサマリア人」のたとえ話は、このような思いを生きる人の話です。私たちも神さまから与えられたこの心をしっかりと生きていけるように、祈り求めていきましょう」

ミサの終わりに子どもたちは祝福を受け、おみやげのお菓子を一人ひとりが受け取った。バンドの演奏と手拍子で「アーメンハレルヤ」を歌って、楽しいミサは締めくくられた。

名古屋教区設立100周年を記念して
教区内の 女子修道会・在俗会 紹介シリーズ（第6回）

瀬戸で60年 富山で50年
教育・司牧 外国人と地域の支援

幼き聖マリア修道会

本修道会の創立者聖バルトロメア・カピタニオは、1807年北イタリアのローベレに生まれ、1832年25歳の時、「ひたすら愛を礎とした」修道会を創立し、現在世界20カ国で実を結んでいます。

日本における宣教活動は、1961年、イタリア本部からの2名のシスターの派遣により始まりました。翌年2月から旧瀬戸教会で公教要理の指導を開始し、以後教会への協力は今日まで継続しています。4月、孫田町に引越し、日本家屋台所付きの二部屋を修道院に当て、2階は教会として使用、初めての復活祭には院長の伴奏で天使ミサを歌い、信者の皆さんとお祝いできた喜びを味わいました。

1963年、瀬戸市の要望に応えて完成した聖カピタニオ女子高等学校の創立と同時に、修道院も移転しました。1972年にはフランシスコ会の要請で富山に共同体を開設し、幼児教育を通して新たな奉仕の道が開拓されました。

現在、日本の共同体は、五つの国籍、多文化を共有する国際共同体です。この利点を生かし、教育活動の他に教会司牧、外国籍の方々の支援、瀬戸と富山の地域社会の必要に応じた支援、その他多様な奉仕を、協働してくださる方々と一緒に「すべてを尽くし、隣人の善のために甘美なる贖い主のカリタ」の奉仕を日々祈りつつ果し続けられることを感謝いたします。

カリタス福祉委員会
「自死した人に寄り添う」ミサ
いのちは共同体として支え育くむ
（松浦司教）

「大切な家族・友人のための追悼ミサ～孤独のうちに自ら命を絶ったすべての人のために～」が11月26日、カトリック港教会で行われた。カリタス福祉委員会委員長・山野聖嗣神父（聖アウグスチノ会）が司式し、およそ30人の参加者の深い祈りによって、死者の安息を願う温かい思いに包まれた。

ミサ前には聖堂正面のスクリーンに松浦悟郎司教から寄せられたメッセージ「孤独のうちに自ら命を絶ったすべての人のために」が映され、読み上げられた。

山野神父の説教も、友人の突然の死に遭遇した驚きや悲しみ、憤り、やるせなさなどが共感をもって聴く者に迫りながら、その友人が永遠の命を生きていることに神に感謝していると述べ、安らぎへと導かれた。

参加者は少数だったが、この催しは名古屋教区にとって大切なものと思われる。それはこの追悼ミサが、自死者を念頭に置いたものだったからだ。

自死ということは、①いろいろ深い事情とやむにやまれない状態であった、②神からいただいた貴重な命を自ら断った、③神からいただいた命ということを知らなかった、ということは永遠の命を知らかった可能性が高いということである。

自死者のための祈りは、このような意味合いから特に必要であると思われるが、今回、ミサとして祈りをささげられたことを参加者一同とても喜んでいる。

カリタス福祉委員会ではこの追悼ミサを今後も毎年続けていきたい、各小教区には案内を出して、参加不参加は問わず祈りをしていただくよう依頼していこうと考えている。

（教区カリタス福祉委員会）

追悼ミサに寄せられた松浦司教のメッセージ

この度、自ら命を絶ったすべての人のためのミサが行われることになったことを心からうれしく思います。

人は生きていく中で、時には孤独な状態に追い込まれたり、病によってこれ以上生きることができないという思いが頭をよぎったりすることは誰にでもあると思います。そんな時、思いとどまることができたとしたら、それは、誰かがそばにいてくれたり、一緒に苦しみを担ってくれたりされたからだと思います。人は誰もが与えられたいのちを生きていきたい、そして愛し、愛されたいという深い望みがあるからです。それを人との関りの中で感じることができたら、どれほど多くの人が死を選ぶことなしに生きられたことでしょうか。

残念ながら、日本では本当に多くの人が自らのいのちを絶っています。私も自死した人の葬儀をしたときに、この方はどれほど苦しかっただろうか、そして、私たちが気づくことができなかったことを悔やむ気持ちで一杯になったことがありました。

カトリック教会は長い間、いのちは神からいただいた大切なものということを強調するあまり、自死した人に対して寄り添う姿勢が欠けていたことは事実です。神は人間を〝関係存在〟として、すなわち共に生きるようにつくられました。だからこそ、そのいのちを個人の問題だけにするのではなく、共同体として支え合い、育んでいく社会にしていく必要があります。

今日、自死した人々とその遺族の方々のために祈るとともに、その決意を新たにできればと願っています。

2022年11月26日
教区司教　松浦悟郎

教区100年の歩み
中心に第2バチカン公会議 教会観の大転回

シスター三好 講演会

名古屋教区主催による教区設立100周年記念講演会「近現代史100年の中の名古屋教区」が11月3日、東山教会で開かれた。教会史を専門とする三好千春シスター（援助修道会）を講師におよそ50人が参加した。

江戸時代末期のパリ外国宣教会による再宣教から始まり、名古屋知牧区の設立前、戦前、戦後、バチカン公会議後と、名古屋教区の動きがわかりやすくまとめられ、二つの公会議、世界情勢、社会情勢、国の政策により体制が大きく変わってきたことを知ることができた。

福祉活動に力を入れていたパリ外国宣教会から、時代の要請により教育に力を入れる神言会へ移ったこと。第1バチカン公会議までは司祭が決める上意下達により信徒のエネルギーが抑圧され、喜びがなくなっていたこと。第2バチカン公会議では教皇の「窓を開けましょう」との言葉で教会観の大転回が行われ、聖職者も修道者も信徒も同じ神の民であり、公教要理以上に聖書が大切なこと、社会に関心を持つことが求められるようになったこと。名古屋教区は弱い人のために働くということから始まったことなど、多くのキーワードをもって語られた。

質疑応答では、インカルチュレーション、信徒の多国籍化などから、「日本の教会とは何か」について意見交換がなされた。

歴史の大きな流れから見ると現在はどのような時期なのか、講演の内容を踏まえ、これからの教会について分かち合える場が設けられたらと願う。

（高蔵寺教会　小林 勉）

大阪教区社会活動センター・シナピス職員ビスカルド篤子さんの講演会が11月3日、名古屋カテドラル布池教会地下ホールで開かれた。「次世代を考える会」（大水修代表）主催。

講演タイトルは「難民とともに歩む教会」。「難民支援は迷いと失敗の繰り返しです」と述べるビスカルドさん。シナピスが取り組んだ難民支援の体験談に80人の参加者は熱心に耳を傾けた。

「シナピス」とはラテン語で「からし種」を意味する。社会正義の実現を目指し、大阪教区の社会活動を支えるネットワークとして02年に設立された。もっぱら行政機関に助けを求めることができない人の相談に乗っている。

日本において難民認定申請をする人は毎年1万人ほどいるが、難民認定率は1パーセント未満。「合法入国」した人と「非合法入国」した人とでは、制度上、保護には雲泥の差がある。

ビスカルドさんは、オーバーステイ（在留許可期限を超えて滞在）などで入管施設に長期収容となった外国人の不当な立場と劣悪な環境での苦痛を訴えた。スリランカ人のウシュマさんは名古屋入管で亡くなっている。運よく仮放免されても、住民登録も就労も国民健康保険加入の許されず、身元保証人が生活を丸抱えすることになる。

迷いと失敗くり返し、難民に徹底し寄り添う

大阪・シナピスの活動紹介

大阪教区シナピス職員
ビスカルド篤子さん講演会

シナピスは多くの難民申請者の身元保証人となり、施設を開放して住まいを提供し、生活全般を支えている。難民たちはアクセサリーなどを作ってバザーで売ったり、月刊「シナピスニュース」の印刷・発行作業を行ったり、空き家をシェルターとして使うための内装作業をしながら支援金で生活をしている。

コロナ禍で一時シナピスを閉鎖したが、再開した活動についてビスカルドさんは次のように話す。

支援金をただで受け取ることにためらう難民のため、社会貢献活動を工夫した。ゴミ用のポリ袋を材料に作った医療防護用ガウン作りは大当たりで、近所の医療機関や介護施設に配り、たいへん喜ばれた。

お年寄り食堂の運営はすべて難民たち。高齢者から外国人に対する偏見を取り除き、親しくなってもらうことを目指した。空き家になっている修道院を見つけて借り上げ、2階はシェルターにし、1階で無料のカフェを開いた。

21年秋頃からはアフガニスタン難民支援が多くなってきた。タリバンの支配により多くのアフガニスタン人から助けを求める電話が入り、現地からもビスカルドさんを名指しで電話があった。

助けを求める家族をどうにか隣国のパキスタンやイランまで逃すことができたが、日本まで退避させる壁は高かった。

外務省などに掛け合い、あきらめずに道を探って、どうにか一家族だけ日本に呼び寄せることができた。

ビスカルドさんは最後に大好きな言葉だという教皇フランシスコの言葉「教会は野戦病院たれ」を紹介して講演を終えた。

ビスカルドさんの実の兄である松浦司教にも話を聴くことができた。

日本が外国から来た人にいかに冷たいか、難民を受け入れない精神がそこにあると司教は述べた。戦前から考えがいっこうに変わらず、法律が何も変わらない。この国が本当に人間を大事にする国に変わっていくために、教会には大きな役割がある。ビスカルドさんの体験談にもあったが、目の前の一人の人を大切にすることが次の関わりを生んでいくと強調した。また、名古屋教区にシェルターを二つ作ったこと、社会活動のネットワーク作りを始めたことを紹介した。

講演会参加者からは、「ビスカルドさんの熱いお話に感動した。時間を忘れて聴き入った」「ひるまない行動力に圧倒された。私に何ができるか考えてみたい」「今まで難民とか仮放免のことなどをあまり知らなかったが、本当に分かりやすく話してくださった」などの感想が聞かれた。

（次世代を考える会）

AJUワインフェスタ
日本製ワインと料理 3年ぶりにぎわう

3年ぶりとなる第17回AJUワインフェスタin多治見修道院が11月3日、神言会多治見修道院の広い敷地ほぼ全面を使って開かれ、秋晴れの空の下、およそ1500人がワインと食事、ぶどう畑のくつろいだ時間と空間を堪能した。

今回は「感謝祭　THANKS GIVING ～日本ワインを楽しめる日～」と銘打ち、多治見修道院および小牧ワイナリーのほか、北海道、栃木県、山梨県、長野県、熊本県、島根県の8カ所のワイナリーから20種類以上の国産ワインが一堂に会し、あじわいの違いを楽しむことができた。フードメニューも豊富で、キッチンカー13店舗がワインにぴったりの山海の料理を提供した。

恒例、島幸子さんのワインセミナーでは、今年作られた多治見修道院産ぶどう100％ワイン「ななつぼし多治見修道院」（赤・白）をテイスティングしながら、ワインの味わい方のレクチャーが繰り広げられた。

コロナ感染症に配慮したワインフェスタは、前売券のみ1500枚限定で、当日券の扱いはなかった。来年のお出かけのためには、ホームページ、フェイスブックなどの事前チェックをお勧めしたい。「小牧ワイナリー」で検索を。

小牧ワイナリー（前身：AJU自立の家ビア名古屋）で働く障害を持つ仲間からのメッセージを紹介します。

「ワインフェスタ」
岩本香代さん

ワインフェスタはおつまみプレイトをうりました。おひるやすみにじぶんのおこづかいでクッキーをかいました。それからおつまみプレイトをはこにいれてうりにいきました。おつまみプレイトをかってくれたおきゃくさんとともだちになりました。

ワインフェスタでおきゃくさんのおともだちがたくさんできました。かえってつぎのひにもらったワインでビーフシチュをつくりました。おいしかったです。ホームのみんなでたべました。

「入社一年目のワインフェスタ」
緒方章一さん

十一月三日で多治見修道院でワインフェスタでかいさいされた。

1500名おやくさんいっぱいきたので人がおおくてきんきょうしました。

たんとうはうけつけがんばりました。

来年のワインフェスタときはワインをのみたいです。

菊地会長
「シノドスの今後の歩みについて」

フランシスコ教皇は世界代表司教会議シノドス第16回通常総会の今後の日程を発表したと菊地功司教協議会会長が11月15日付文書で伝えた。それによるとローマ総会は、第1会期が2023年10月4日から29日、第2会期が24年10月となった。

教皇はこの複数年にわたる歩みによって、司教たちだけでなく全教会が歩みを共にし、祈り、分かち合い、識別を深めて、教会のあるべき姿を再認識し、具体化するよう呼びかけている。

菊地会長の文書「シノドスの今後の歩みについて」は、ほかにも大陸別シノドスのための作業文書やアジアの大陸別シノドスについても言及し、作業文書の最後の設問について分かち合いをすることを勧めている。中央協議会ホームページで読むことができる。

（祭）＝祭日、（祝）＝祝日、（記）＝記念日

1月の教会暦

1日(日)(祝)神の母聖マリア（祭）
世界平和の日
2日(月)(振)聖バジリオ聖グレゴリオ（ナジアンズ）司教教会博士（記）
8日(日)主の公現（祭）
9日(月)(祝)主の洗礼（祝）
15日(日)年間第2主日
17日(火)聖アントニオ修道院長（記）
18日(水)～25日(水)キリスト教一致祈祷週間
21日(土)聖アグネスおとめ殉教者（記）
22日(日)年間第3主日（神のことばの主日）
24日(火)聖フランシスコ・サレジオ司教教会博士（記）
25日(水)聖パウロの回心（祝）
26日(木)聖テモテ聖テトス司教（記）
28日(土)聖トマス・アクィナス司祭教会博士（記）
29日(日)年間第4主日
世界こども助け合いの日（献金）
31日(火)聖ヨハネ・ボスコ司祭（記）

2月の主な教会暦（主日・祭日など）

5日(日)年間第5主日
12日(日)年間第6主日
19日(日)年間第7主日
22日(水)灰の水曜日（大斎・小斎）
26日(日)四旬節愛の献金
四旬節第1主日

教区行事予定　（＊＝松浦司教）

1月

4日(水)教区事務所仕事始め
5日(木)教区顧問会＊
7日(土)宣司評運営委員会＊
10日(火)樹の会
13日(金)正義と平和委・定例会
14日(土)殉教者委・定例会
17日(火)カトリック看護協会例会
22日(日)新成人と共に祝う教区新年の集い＊／青年委員会

2月

4日(土)教区殉教者祭（栄國寺）＊
5日(日)教区宣教司牧評議会＊
9日(木)月集＊／教区顧問会＊
10日(金)正義と平和委・定例会＋学習会
11日(土)(祝)教区殉教者祭（金沢・高山右近）＊
殉教者委・定例会
信徒使徒職協議会役員会
樹の会
14日(火)愛岐B会議／青年委員会
19日(日)司祭評議会＊
21日(火)カトリック看護協会例会
25日(土)濃尾B会議

教区行事以外の松浦司教予定

1月

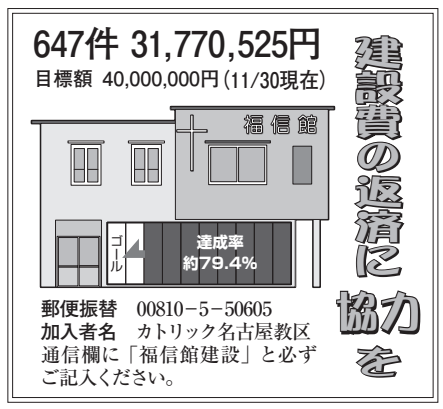
12日(木)常任司教委員会
12日(木)～19日(木)全国司祭養成研修会
24日(火)南山評議員会

2月

2日(木)常任司教委員会
13日(月)～17日(金)司教総会

告知板

◇1月の炊き出し
木 5日布池、12日南山・樹の会、19日聖霊・南山・樹の会、26日城北橋
金 6日喜望の会、13日布池、20日長浦、27日南山



聖霊会　召命黙想会2023
「神さまナビ　私をどこに導くの？」
～祈りのうちに、神さまがわたしたちを導かれているその先を見つめませんか？～

指　導　フィラデルフィ・パヴォール神父（神言会）
日　時　1月21日（土）14：00 ～ 22日（日）15：00まで
会　場　名古屋市昭和区八事本町1 聖霊会 八事本部修道院
対　象　40歳くらいまでの独身女性
参加費　3,000円
問合せ・申込み　☎052-832-0434（Sr. 片山）
メール seirei-voc@kss.biglobe.ne.jp（Sr. 西尾）

2022年度正義と平和委員会学習会
「やられた方から歴史を見る」～誰一人置き去りにしない～

米中が軍事衝突し、日本が参戦したら、真っ先に沖縄が戦場になります。77年前の沖縄戦と同様、住民は捨て石にされかねません。再び沖縄を戦禍に巻き込まないため、本土の私たちは、まず、沖縄の人たちの叫び声に耳を傾けましょう。

日時・会場　1月21日（土）10：30～　福信館

テーマ「基地沖縄の人々」　講師　小林武さん（沖縄大学教員）

問合せ　カトリック名古屋教区正義と平和委員会
名古屋市東区葵2-6-29　福信館気付　FAX 052-935-7195

聖霊会　聖霊修道院主催「New 賛美の集い 2022」

み言葉とテゼの歌、美しい音楽を聞きながら、日常の雑音から少し離れてみませんか。

日　時　1月21日（土）・2月18日（土）・3月18日（土）　19：00～20：00
参加費　無料。前もっての申し込みは必要ありません。

場　所　聖霊ミッションセンター　〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町1
地下鉄名城線八事日赤病院1番出口を出て右方向へ、すぐの角を右折、次の角も右折。信号を左折し門へ。徒歩5分。
問合せ　聖霊修道院　☎052-832-0434

聖霊会　ラビリンスメディテーション

日　時　1月28日（土）・2月18日（土）・3月25日（土）　13：30～16：30
参加費　200円

第16回 ホスピス聖霊講演会【公開 &WEB ライブ配信】

テーマ「たましいの安らぎ　病院チャプレンの働きより」

講　師　藤井理恵さん（淀川キリスト教病院チャプレン）
日　時　1月28日（土）13：30～15：30（質疑応答30分含む）13：00開場　・ライブ配信に入室
会　場　聖霊病院　2階　聖霊ホール
対　象　一般　定員250名（会場は50名）　定員になり次第締切
申込み　往復はがき、または E メールに、氏名・住所・電話番号・参加方法（会場 or WEB）をご記入の上、下記まで。申込みされた方には、追ってご連絡をいたします。
1月20日（金）必着
＊新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、WEB ライブ配信のみの講演とさせていただきます。後日、動画配信はありません。
聖霊病院　カトリック社会事業室
〒466-8633 名古屋市昭和区川名山町56番地
☎052-832-1181（内線3316）　Eメール　katosha@seirei-hospital.org

新成人と共に祝う『教区新年の集い』
New Year gathering to celebrate the new adults

日　時　1月22日（日）　14：00～
場　所　カトリック布池教会大聖堂
司　式　松浦悟郎司教
内　容　14：00教区新年のミサ。ミサの中で新成人の祝福式を行います。
主　催　カトリック名古屋教区
問合せ　名古屋教区本部事務局　☎052-935-2223

・新型コロナウイルス感染状況により中止となる場合もあります。
・体調不良の方は出席を控えて頂き、出席者は全員マスクを着用願います。
・駐車場が狭いため、公共交通機関をご利用下さい。

名古屋教区殉教者祭〈栄国寺〉のご案内

栄國寺は、江戸時代の寛文年間にキリシタン200余名が処刑された刑場・千本松原の地に、その菩提を弔うため1665（寛文5）年、尾張藩2代藩主徳川光友によって建立された。1997年、名古屋教区は住職の了解を得てこの境内に殉教キリシタン顕彰碑を建て、それ以来毎年2月の第1土曜日に殉教者顕彰ミサを行っている。

日　時　2月4日（土）　10時30分～ロザリオの祈り、引き続きミサ
会　場　栄國寺境内　キリシタン史跡公園　名古屋市中区橘1-21-38
交　通　地下鉄名城線東別院駅下車徒歩7分（4番出口から北へ3分、下茶屋公園交差点を西へ4分）。公共交通機関をご利用ください。
司　式　松浦悟郎司教
その他　・ロザリオをご持参ください。
・司祭･助祭は赤のストラをお持ちください。
・式場へは道路沿いの広場からお入りください。
・顕彰碑、墓石が並ぶ区画には立入り禁止です。
問合せ　教区殉教者顕彰委員会事務局　☎052-936-8366

名古屋教区殉教者祭
〈福者ユスト高山右近殉教者記念ミサ〉ご案内

北陸ブロックによって高山右近を記念するミサがささげられます。
高山右近は豊臣秀吉の禁教令に対して信仰を捨てることなく追放処分を受けるが、前田利家の好意によって加賀藩に引き取られた。26年の滞在中、藩政を助け、建築や茶道など金沢の文化に大きな影響を与え、宣教活動にも力を注いだ。徳川幕府の禁止令によって金沢を去ると、フィリピン・マニラに赴き、そこで生涯を終えた。

日　時　2月11日（土･祝）　13時～
会　場　カトリック金沢教会　金沢市広坂1-1-54
司　式　松浦悟郎司教
問合せ　金沢教会　☎076-264-2536